

は し が き

研究代表者

諸岡 道比古

本報告書は、平成 15～17 年度にかけて科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））の助成を受けて実施した共同研究、「半島空間における民俗宗教の動態に関する調査研究」（課題番号 15520056）の研究成果の一部である。

現実の生活における宗教の動態を宗教現象学的に観察し、その様相と歴史的地理的な諸要素を分析していくことは、宗教の形成や実践を微視的に考えていく上で欠くことのできないものである。高度に抽象化され普遍化された教理体系であっても、個々の享受や日常における行動の実態によって、それらは変動したり、解釈しなおされたりする。こうした問題意識を共有した上でなされた本共同研究の目的は、宗教現象の動態の把握とその分析という研究視角に基づき、半島空間という、海と山に囲まれ、自律的かつ一定の閉鎖性をも指摘できる対象地域を設定し、詳細な分析を加える、というものである。しかも、その際、対象を宗教現象に限定せず、行事・生活意識などの民俗的事象をも視野におさめ、両者の相互関連や対立葛藤、さらに融合の過程を明らかにすることを試み、この点において、従来の研究を超えた東北日本における民俗宗教の新たな動態モデルを提出する、ということを目としたものである。

このような目的達成のために選ばれた地域が青森県の夏泊半島である。夏泊半島は青森県のほぼ中央部に位置し、東、西そして北を陸奥湾に、南を八甲田山系に囲まれている。その陸奥湾の東側と北側には下北半島が、西側には津軽半島が位置している。まさに自立性と一定の閉鎖性を備えた半島空間といえる地域である。この地域に鎮座する椿神社にまつわる椿信仰を、その伝説の分析を手始めとして、祭祀の動態現象を里修験の関わりから取り上げるのが、

小池淳一 椿をめぐる伝説と祭祀 ー青森県夏泊半島の椿明神ー

である。それに対して、地域の神社とかかわることなく懐かれる信仰、つまり、この地域の人々が「サンヅク」という言葉で表現する、信仰のノエマを授かり、それらを屋内神や漂着神（たとえば、オシラサマや龍神様、弁天様など）として祀る信仰現象を、祀られている神々から取り扱ったものが、

諸岡道比古 半島における屋内神の研究 ーオシラサマをめぐるー

木村敏明 夏泊半島における「漂着神」信仰 ーその基盤と変遷ー

である。これら屋内神や漂着神がサンヅいたことを教えたり、あるいはそれらの神々を遊ばせたり、あるいは「口開き」など占いを行ったりして夏泊半島の人々の生活にとけ込んでいる民間宗教者を問題にしているのが、

山田巖子 夏泊半島における民間宗教者 ー移動と役割ー

であり、これらの宗教現象を支えている生業を、しかも夏泊半島と他地域の交流をも視野に入れて生業を論じ、宗教現象の動態にも示唆を与える考察をおこなったものが、

小林亜希子 青森県夏泊半島における生業の諸相とタビの受容

である。これら諸論文に対し、夏泊半島における宗教調査・研究に基礎的資料として必要不可欠な文書、日光院文書と清宝院文書の翻刻ならびに解説を付したものが、

村中健大 日光院・清宝院所蔵資料解説

である。

これらの調査・研究を通して、青森県にある下北半島や津軽半島における信仰現象と類似している点はあるものの、それだからといって同一のものとはいうことの出来ない夏泊半島独特の信仰現象の一面をかいま見ることや、信仰現象の動態分析を行うことが出来たかと思う。こうした調査・研究を行うことが出来たのも、夏泊半島に住まわれている方々が暖かく受け入れてくださったこと、平内町教育委員会のご支援、あるいは弘前大学人文学部宗教学民俗学実習履修学生や愛知県立大学文学部日本民俗学ゼミナール生の調査協力に負うところが大きいと考える。また、これらの人々が調査資料を共有させてくれたことにも心から感謝申し上げる。

目 次

はしがき	諸岡道比古
目次	
研究概要	
個別研究	
椿をめぐる伝説と祭祀　－青森県夏泊半島の椿明神－	小池 淳一…… 1
半島における屋内神の研究　－オシラサマをめぐって－	諸岡道比古…… 12
夏泊半島における「漂着神」信仰　－その基盤と変遷－	木村 敏明…… 29
夏泊半島における民間宗教者　－移動と役割－	山田 巖子…… 39
青森県夏泊半島における生業の諸相とタビの受容	小林亜希子…… 58
日光院・清宝院所蔵資料解説	村中 健大…… 87

研究概要

1. 研究組織 (平成 18 年 3 月 31 日現在)

研究代表者	諸岡道比古 (弘前大学人文学部教授)
研究分担者	山田 巖子 (弘前大学人文学部助教授)
研究分担者	小池 淳一 (国立歴史民俗博物館助教授)
研究分担者	木村 敏明 (東北大学文学研究科助教授)
研究協力者	村中 健大 (青森県史編纂室嘱託)
研究協力者	小林亜希子 (青森市史編纂室嘱託)

2. 交付決定額 (配分額)

(金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 15 年	1, 4 0 0 千円	0 円	1, 4 0 0 千円
平成 16 年	9 0 0 千円	0 円	9 0 0 千円
平成 17 年	1, 2 0 0 千円	0 円	1, 2 0 0 千円
総 計	3, 5 0 0 千円	0 円	3, 5 0 0 千円

3. 研究発表

(1) 学会誌等

小林亜希子 家の生業選択と労働力－夏泊半島沿岸部漁村における生業の複合から－、『青森県の民俗』第 5 号、2005 年

(2) 口頭発表

小池 淳一 椿をめぐる祭祀－青森県夏泊半島の小祠の動態－、日本民俗学会第 56 回年会、2004 年 10 月

村中 健大 近世の里修験と現代の神職－青森県夏泊半島のベッコウ日光院の活動－、日本民俗学会第 56 回年会、2004 年 10 月

木村 敏明 さずかったカミガミ－青森県夏泊半島におけるオシラサマとリュウジン－、東北民俗の会、2004 年 12 月

村中 健大 近世平内の修験の活動、青森県民俗の会定例研究会、2005 年 9 月

小池 淳一 呪術の系譜、日本民俗学会第 57 回年会、2005 年 10 月

(3) 出版物

諸岡道比古、小池淳一、山田巖子監修執筆、『夏泊半島の宗教と民俗－弘前大学

人文学部宗教学民俗学実習報告書Ⅱ－』、弘前大学人文学部宗教学
研究室民俗学研究室、2003年3月

諸岡道比古、山田巖子、小池淳一監修執筆、『夏泊半島における宗教民俗誌－弘
前大学人文学部宗教学民俗学実習報告書Ⅲ－』、弘前大学人文学部
宗教学研究室民俗学研究室、2005年3月